

自己理解を深めるための進路指導の工夫

—— 指導資料の作成と活用を通して ——

目 次

I	テーマ設定理由	85
II	進路指導の意義と性格	86
1.	学校教育法の上から	86
2.	進学習指導要領の上から	86
3.	進路指導の定義	86
4.	進路指導の目標	86
5.	進路指導の基本的性格	86
6.	進路指導の活動内容	87
7.	学級における進路指導のあり方	87
III	自己理解について	87
1.	生徒理解と自己理解	87
2.	自己理解の内容と方法	88
3.	意識調査	90
4.	進路指導の流れ	93
5.	自己理解における学年別計画表	95
IV	授業実践例	97
1.	題材	97
2.	題材設定理由	97
3.	指導目標	98
4.	指導計画	98
5.	本時	98
6.	資料	100
7.	授業を終えて	102
V	研究の成果と今後の課題	104
	参考文献	105

浦添市立港川中学校教諭

上 地 タカエ

自己理解を深めるための進路指導の工夫

—指導資料の作成と活用を通して—

浦添市立港川中学校 上 地 タカエ

I テーマ設定理由

新学習指導要領では、進路指導について「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すると共に、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に自己の進路を選択決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を育成することが重要である」と明示してある。つまり進路指導の本質は、生徒一人一人の将来にわたっての「生き方」の指導援助をすることである。

ところが、中学校での進路指導（進路学習）はややもすると3年生におもきをおいた進学中心の指導になりがちで、1年生のときから計画的・系統的・組織的な指導が十分でなかったように思われる。

その問題点を生徒側から整理すると

- 適性や能力に応じた進路選択ではなく、合格さえすればよいという考え方があるのではないか
- 将来の見通しを持たず安易な態度で進路を考える。

このような認識での進路選択が、ややもすると社会問題になっている高校中途退学の一つの要因ともなっているとおもわれる。

更にこれまでの実践を振り返ってみると

- 自己理解を深めさせることが不十分である。
- 進路学習の資料が充実しておらず、活用が不十分である
- 学校全体としての指導体制が不十分である

これらを反省してみると、諸行事等で十分指導ができないところがあり、又教師の認識不足もあって1・2年の進路学習がおろそかになりがちであった。

そこで、次のことを内容として、

- 1年……………自分の特徴を知る
- 2年……………自分の適性や可能性を理解する
- 3年……………進路の選択

このように系統的に資料を作成し、進路学習することによって、学年の発達段階に応じた自己理解が深まり、主体的に自己の進路を選択することができるだろうと考え本テーマを設定した。

II 進路指導の意義と性格

1. 学校教育法の上から（教育の目標）

○ 学校教育法36条第2号

「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能，勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」

2. 新学習指導要領の上から

○ 総則 第6の2の(4)

「生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう，学校の教育活動全体を通じ，計画的，組織的な進路指導を行うこと」

3. 進路指導の定義（文部省進路指導の手引より）

進路指導とは，「生徒の個人資料，進路情報，啓発的経験及び相談を通じて，生徒自ら，将来の進路を選択，計画し，就職または進学して，さらにその後の生活に適応し，進歩する能力を伸張するように，教師が組織的，継続的に指導援助する過程」をいう。

4. 進路指導目標

人間としての生き方に関する指導に配慮しつつ，主体的に進路に進出する能力の育成を図る

5. 進路指導の基本的性格

(1) 進路指導は，生徒自らの生き方についての指導・援助である。

一 進路指導とは，変動する社会の中で正しく自己を生かすことができるようにしっかりした人生観・職業観を，進路との結び付きの上で自覚させ，指導・援助する教育活動であり，その意味において「生き方」の指導であり「人生設計」の指導であるいえる。

(2) 進路指導は，個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動である。

一 中学校段階を「進路の探索と吟味」の時期と見るならば生徒の職業的（進路）発達を促進するためには次のような指導援助が行われなければならないであろう。

① 個々の生徒の能力・興味・欲求・性格的特性・価値観などについての統合的な理解を得ること

② 暫定的な進路計画を立案し，現実的諸条件にてらして検討・修正すること。

③ 仕事や勉学などについて，探索活動を行い啓発的経験を深めること

④ 職業や上級学校について，多くの知識・情報を獲得し，それらを活用すること。

⑤ 希望の進路を実現するために必要な方法や手順等を理解し，最前の努力をする態度を養うこと。

(3) 進路指導は，一人一人の生徒を大切にしその可能性を伸張する教育活動である。

(4) 進路指導は，生徒の入学当初から毎学年，計画的，組織的，系統的に行われる教育活動である。

(5) 進路指導は，家庭・地域社会・関係諸機関等との連携，協力が特に必要とされる教育活動である。

6. 進路指導の活動内容（学校における進路指導の機能という面から）

(1) 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と、生徒に正しい自己理解を得させる活動

生徒個人に関する資料を豊富に収集し、一人一人の生徒の能力・適正等を把握して、進路指導に役立てると共に、生徒にも将来の進路との関連において自分自身を正しく理解させる活動である。

(2) 生徒に進路に関する情報を得させる活動

職業や上級学校に関する新しい情報を生徒に与えて理解させ、それを各自の進路選択に活用させる活動である。

(3) 生徒に啓発的経験を得させる活動

生徒に経験を通して、自己の能力・適正等を吟味させたり、具体的に進路に関する情報を得させる活動である。

(4) 生徒に進路に関する相談の機会を与える活動

個別あるいはグループで、進路に関する悩みや問題を教師に相談して解決を図ったり望ましい進路の選択や適応・進歩に必要な能力や態度を発達させる活動である。

(5) 就職や進学等に関する指導・援助の活動

就職、進学、家業、家事従事など生徒の進路選択の時点における援助や斡旋などの活動である。

(6) 卒業者の追指導に関する活動

生徒が卒業後それぞれの進路先においてよりよく適応し、進歩、向上していくように援助する活動である。

7. 学級活動における進路指導の在り方

○ 生徒一人一人の生き方や人生設計の確立への指導・援助

○ 生徒一人一人の職業的発見を助長するための指導・援助

(1) 職業に対する興味関心を高めていくようにする。

(2) 職業についての知識・理解を深めるようにする。

(3) 職業についての適正を自覚させる。

(4) 職業観の基礎を養う。

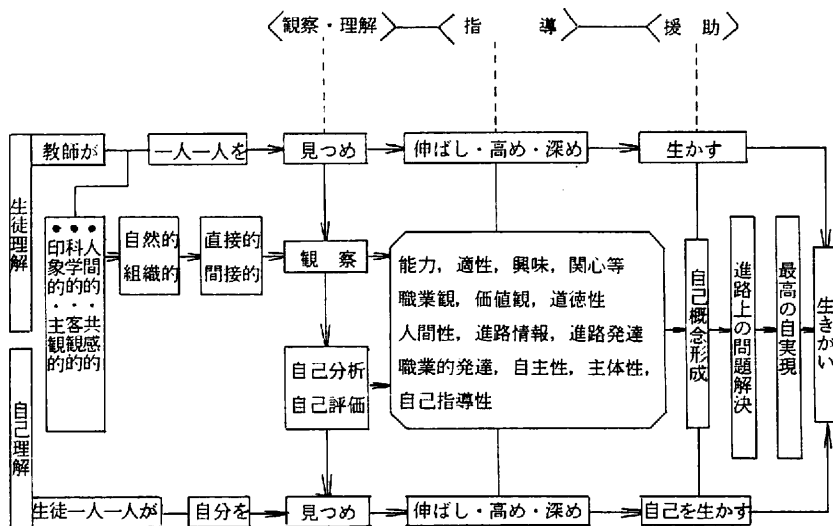
III 自己理解について

1 生徒理解と自己理解

進路指導は、生徒一人一人が、自分の能力・適正・興味・関心をはじめ、性格や環境等を正しく理解し、進路に関する正確な情報を入手し、個性に即した進路を選択し決定し、自己の生き方を通して自己実現を図ることを教師が組織的・計画的に指導し援助することである。そのためには、教師はまず第一に生徒を正しく、温かく理解し、生徒の自己理解を援助することが進路指導の基本となる。さらに教師の温かい生徒理解の姿勢は、生徒自身が素直に自分を見つめ、正しい自己理解をすすめ、自己受容し、自己洞察に至る自己概念の深化と自己指導・自己実現に至る過程を大きく支えることができる。

図1は、教師の生徒理解と生徒の自己理解の関心を観察指導の視点からまとめたものである。

図1 観察指導による生徒理解と自己理解



2 自己理解の内容と方法

一人一人の生徒が、自分としての生き方にふさわしい進路を選択していけるためには、何よりもまず自分についての理解を深めていかなければならない。自己理解は自己についての知識・情報を収集することと同時に、自己を客観的に正しく理解し評価していこうとする過程であり、常に変容していく自己への関心がなければならない。つまり自分の身体的特徴、能力、適性、性格等について理解し、家庭環境をはじめ保護者や周囲の期待などにも気づき、自分とはどのような人間なのか、自分は今本当に何をしたいか、将来どのような生き方をしたいのかなどを常に吟味し、より客観的・現実的な自己概念を形成していくことである。

進路指導における自己理解の方法は、直接的な方法と間接的な方法に分けて考えることができる。

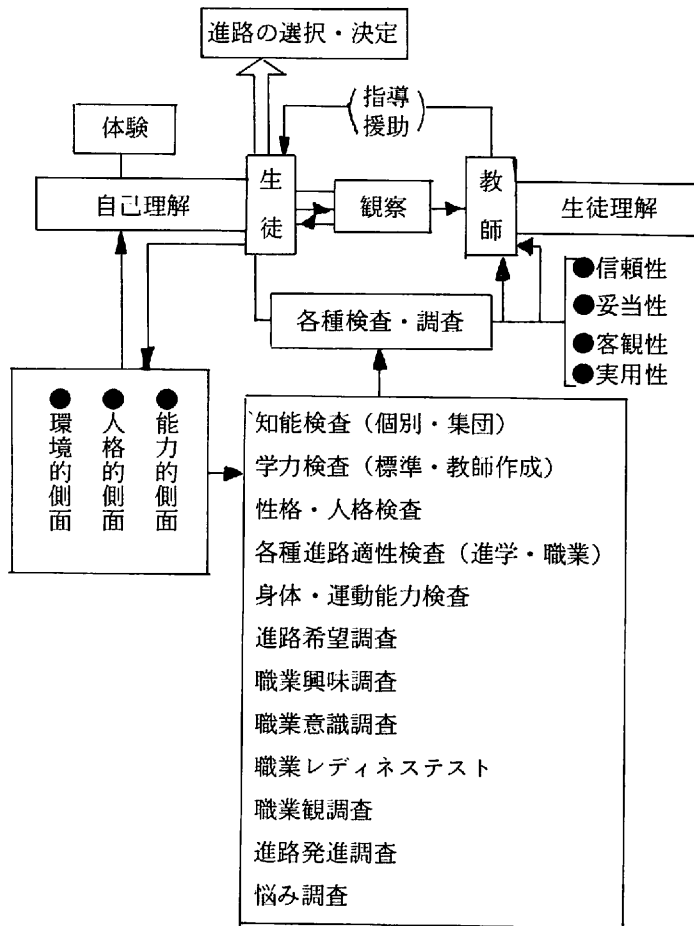
直接的方法には

- ① 自分のさまざまな体験を通して自分の能力や忍耐力、長所、短所など多様な自己の側面について自己観察をし実感をもって理解する方法
- ② 自己分析表や検査・調査などの道具を使った自己理解の方法

間接的方法

- ① 教師、親、友人などの観察等による自己に関する比較的主観的主観性の高い情報提供を受けて、自己の理解の参考にする方法
- ② 教師や専門家による検査や調査の結果、その解釈や診断等の客観的な情報によって自己理解の援助や指導を受けて自己理解をより深める方法がある。

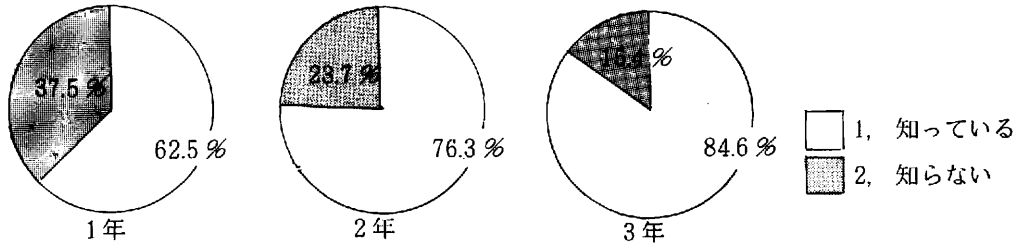
自己理解の客観的な方法として検査・調査が用いられるが、理解の内容としては、能力的な側面、人格的な側面、環境的な側面がある。自己理解およびそれを援助するための生徒理解とその方法としての検査・調査の主なものを一覧したものが図2である。



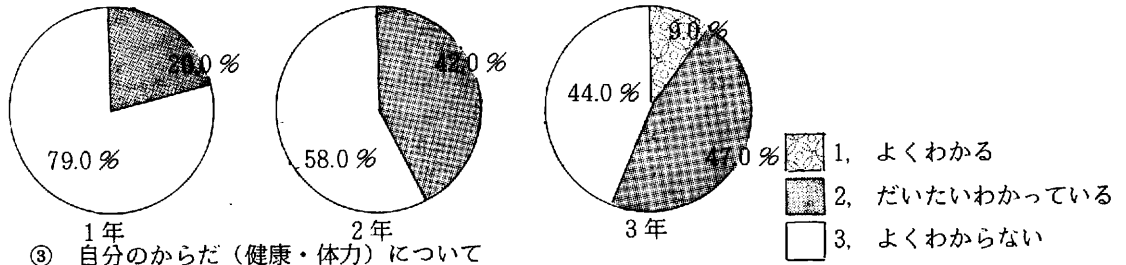
3. 進路に関する意識調査

(1) 生徒の意識調査

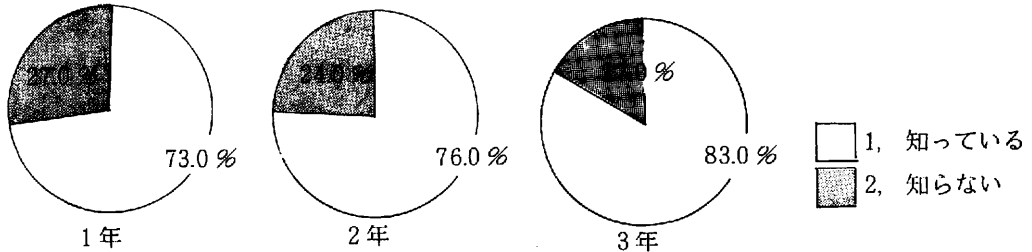
① 自分の学力について



② あなたはどんな長所をもち、どんな職業に適しているかわかっていますか。



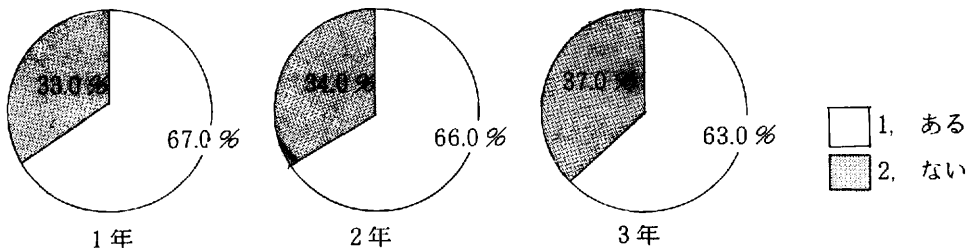
③ 自分のからだ（健康・体力）について



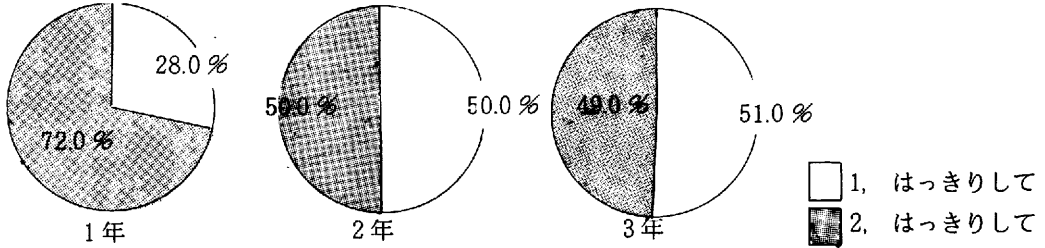
考察

学力や自分の体力については学年を経るにつれて自己の理解は増しているか、長所や適正については、3年になっても尚44%の生徒が「よくわからない」と答えている。これは、自分の長所や適性について理解しておらず、今後は自分の長所を理解させ、それと職業の適性との関わりを考えさせ、継続的な指導が必要である。

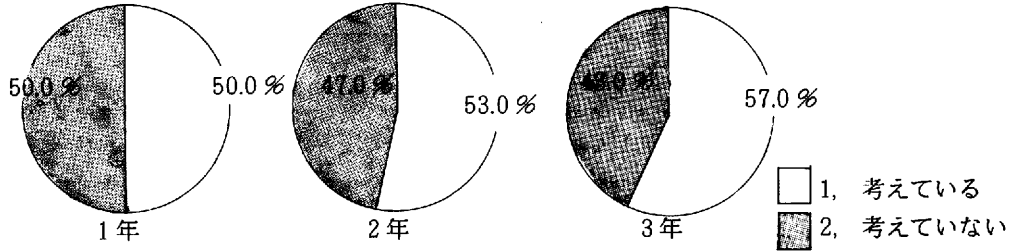
④ あなたは将来つきたいと思う職業がありますか。



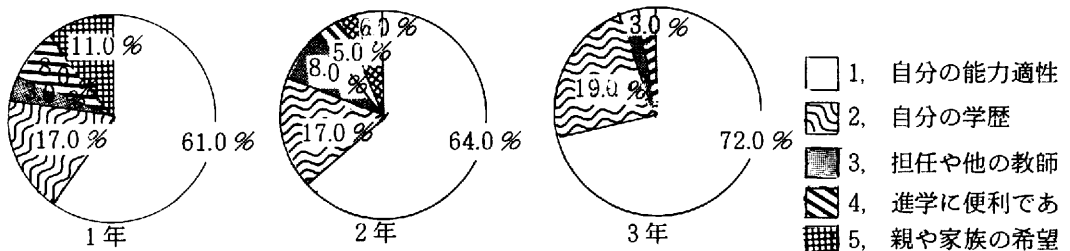
⑤ 進学や就職をする動機や目的がはっきりしていますか。



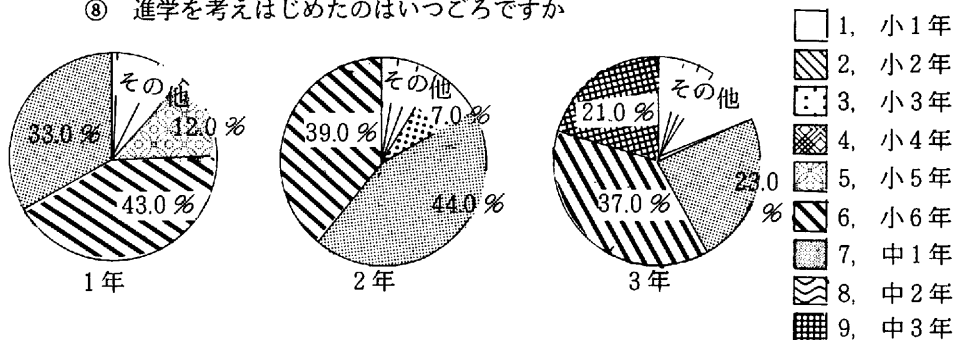
⑥ 将来の希望職業や進路などとも関連づけていますか。



⑦ 進路決定の際、最も目安にするを次の中から選びなさい



⑧ 進学を考えはじめたのはいつごろですか

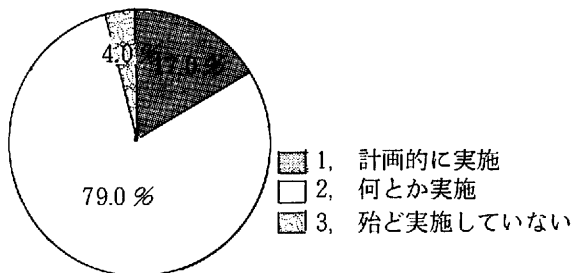


考察

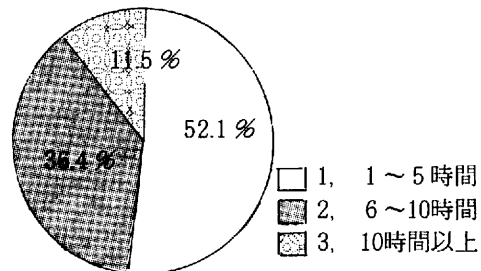
④設問で将来つきたいという職業についての関心が薄いことや、⑥の設問で進学や就職する動機や目的がはっきりしていない生徒が半数もいる。⑥の設問についても自己の希望職業と関連づけていないことがわかる。これは将来の目的意識が育っていないためであり今後の課題である。設問⑧では小6～中1にかけて進路に対する興味関心が高くなっている。

② 教師の意識調査

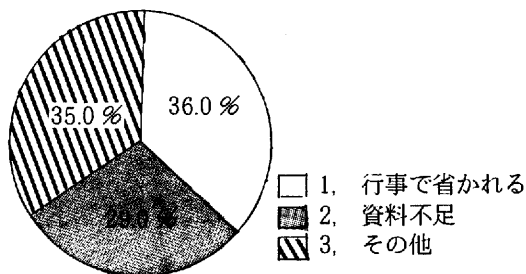
① あなたは学級指導の中で進路学習をどのように取り組んでいますか



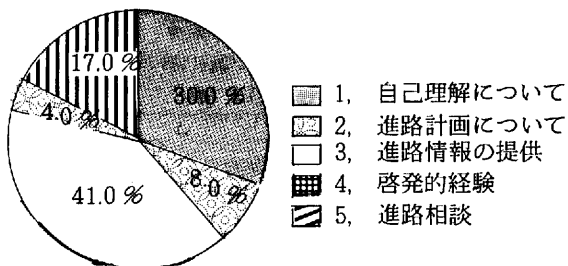
② 学級における進路指導を何時間実施していますか



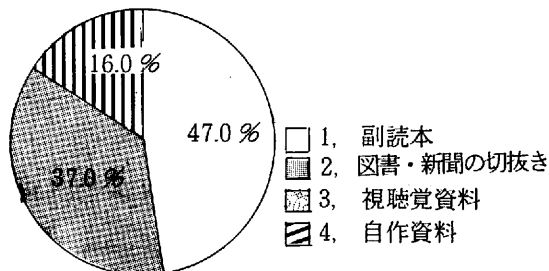
③ ②の1についての理由はなんですか



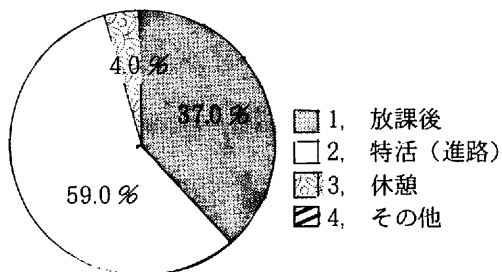
④ 進路指導で特にどれに重点をおいて指導していますか



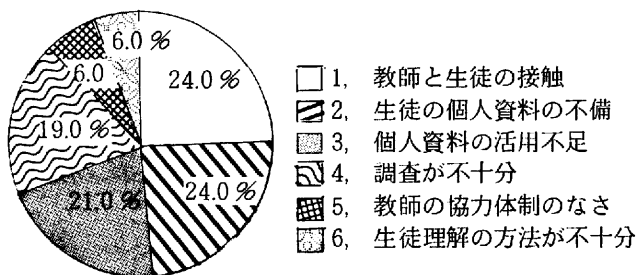
⑤ 進路学習で特にどのような資料を活用していますか



⑥ 進路相談を主としてどの時間におこなっていますか



⑦ 進路相談のために生徒理解を深める上でもっとも困難と思われることはなんですか

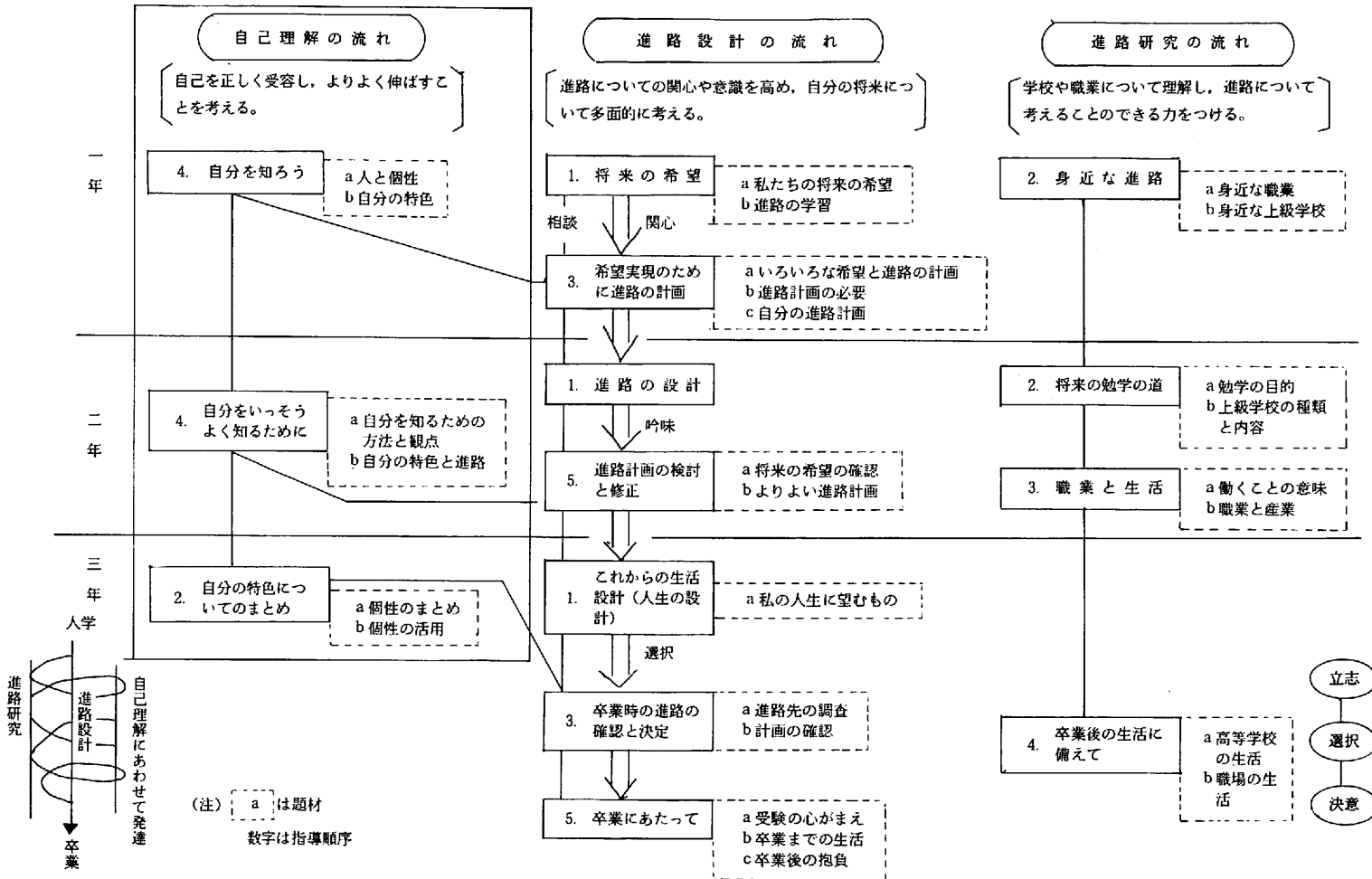


考察

進路学習を何とか実施しているという教師は79%もいるが、その指導時間は1～5時間が52%, 6～10時間が36.4%になっており指導要領の示す時間数に近づけるよう努力する必要がある。

又、その理由として学行行事や資料不足があげられている。

進路学習の流れ



5 自己理解における学年別計画表（進路指導年間計画より抜粋）

第一学年

指導目標 自分の将来や働くことへの関心を高め、実際に進路の希望や計画をもつようになるとともに、自己実現のために自己理解や自己伸長に努める生徒に育てる。

	題材（時間）	目 標	指 導 内 容	指導上の留意展及び資料
二 学 期	人と個性 (1)	・人の個性は十人十色であることを身近な友人を通して、実感させ理解させる。	・自分を知るための方法や内容を理解させ、自分の特色をまとめさせる。	・自分の個性について自分でもよくわからないものである。発表しあうことによって気づかせるようにする。
	自分の特色 (2)	・自己理解のための自己分析をして進路の希望や計画について考えさせる。	・自己分析をして、これらの努力点を明らかにし、自分を成長させていくための目安を把握させる。	・自己分析表

第二学年

指導目標 自分の特色と進路の情報を理解し、いっそう明確な進路の希望や計画をもつようになると共に、将来の生き方を考えながら自分自身でその計画を吟味し、それを実現しようとする生徒に育てる。

	題材（時間）	目 標	指 導 内 容	指導上の留意展及び資料
三 学 期	自分の適性 (1)	・適性の意味を理解させると共に、適性の面から希望の職業を見直させる ・希望する職業を自己の適性に関連させて自分の可能性も含めて考えさせると共に、希望実現のために努力する心を養う	・適性の概念を把握させ、自分の希望職業と適性との関係、今後の努力点などをまとめさせる。	・努力によって能力や適性の伸張が可能なことを理解させる。

	題材（時間）	目 標	指 導 内 容	指導上の留意点及び資料
三 学 期	自分の特色と 進路 (1)	・今まで立てた進路計画について再検討させ時には変更、修正も必要であること理解させる。	・将来の希望の確認 ・実現可能な計画にするためには機会ある事に検討していく必要があることをわからせる。	・進路計画表 ・自己分析表
	進路計画の吟 味 (1)	・自分の進路計画を実現可能な計画に修正し、機会ある事に検討、吟味する態度を育てる。	・事前学習を通して、進路計画の検討、吟味する必要性を知る。 ・自分の進路計画を検討修正して、進路希望計画をまとめさせる。	・先輩の事例 ・各自の進路計画表

第三学年

指導目標 自分の特色や希望する進路の情報を確かめ、さらに将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路の選択をするとともに、その進路において自己実現に努めていく生徒に育てる。

	題材（時間）	目 標	指 導 内 容	指導上の留意点及び資料
一 学 期	自分について まとめる (1)	・進路選択にあたり自己理解のために必要な資料まとめ、さらに検討を加え、その結果を進路選択に活用させる。	・進路選択上、自己理解についての重要性を考えさせる。 ・自分の特性をしり自分についてまとめ検討する。	・自己分析表
二 学 期	進路先の選択 (1)	・調査結果を整理し検討して発表したり友達の発表を聞いて自己の進路計画を見直し、適切な進路選択ができるようにする。	・調査結果を聞いて自分にふさわしい進路先について考えを深めさせる。 ・進路計画の検討	・進路情報 ・先輩の進路

	題材（時間）	目 標	指 導 内 容	指導上の留意点及び資料
二 学 期	進路計画の最終検討 (1)	・自分の進路決定にあたって自分の進路計画の再検討の重要性を理解させ、自分にふさわしい進路先が決定できるようにする。	・進路計画の再検討の重要性を知らせる。 ・進路計画の検討と観点の確認 ・相談活動と自己決定	・先輩の声「私の進路決定」
三 学 期	進路決定 (1)	・進路決定に当たって進路計画を再検討する必要があることを理解させ自分の希望する進路を選定できる能力を養う。	・進路先を決めた理由やいきさつをまとめる ・自分が選んだ進路先について問題がないか各自検討させ、決定させる。	・進路決定の条件 ・先輩のアドバイス

IV 授業実践例

学級活動（進路）指導案

平成3年11月22日（金）3校時

港川中学校

2年1組 男17名・女21名

授 業 者 上 地 タカエ

1. 題 材 「適性と進路」

2. 題材設定の理由

一人一人の生徒が自分としての生き方にふさわしい進路を選択していくためには、何よりもまず自分についての理解を深めていかなければならない。

自己理解は自己についての知識・情報を収集することと同時に自己を客観的に正しく理解し評価していこうとする課程である。つまり、自分の身体的特徴、能力適性、性格等について理解し、家庭環境をはじめ保護者や周囲の期待などにも気づき、自分とはどのような人間なのか自分は今本当に何をしたいのか、将来どのような生き方をしたいのか、など常に吟味しより客観的・現実的な自己概念を形成していくことである。

そのためには、まず適性の概念を把握させる必要がある。それで本時では自分をより客観的に理解するための方法や観点を学ばせ、それに基づいて実際に自分の特色についてまとめさせ、より深い自己理解を得させるようにし、自分の特色と進路を関係づけて考えさせ、それらを踏

まえて、具体的に自分の進路計画を吟味させることをねらいとして、本題材を設定した。

3. 指導目標

- ① 適性の意味を理解させ、希望の職業について考えさせる。
- ② 自己理解の必要性を確認させ、自己理解深化の方法を把握させる。
- ③ 自分の特色と進路を関係づけて考えさせ、進路計画を吟味させる。
- ④ 強い意志をもって自己伸張に努める態度を育成する。

4. 指導計画

- ① 自分の適性—————1時間（本時）
- ② 自分の特色と進路—————1時間
- ③ 進路計画の検討と吟味—————1時間

5. 本時

(1) 本時のテーマ 自分の適性

(2) 学級の実態

いつも明るい雰囲気です。授業にのぞんで発表も活発である。うまくいくと楽しい授業にもなるが、ときには動機づけとして提供した話題にわのりして脱線してしまい、しまりのない状況になる場合がある。

進路に関しては、感心はあるがまだ実感としてとることができないよう学習活動に活気がみられない。

はじめをつけさせ、前向きに授業にとりくませ、将来に夢と希望をもたせることが大きな課題である。

(3) 本時のねらい

- ① 適性の意味を理解させると共に、適性の面から希望の職業を見直させる。
- ② 希望する職業を自己の適性に関連させて自分の可能性も含めて考えさせるとともに、希望実現のために努力する心を養う。

(4) 事前準備と指導

事前指導—————① 6班を編成

- ② 職業群の特色と必要と思われる適性について、「中生活と進路」(p, 41～p, 45)を参考にして調べさせておく。

(5) 本時の展開

段階	学習内容	学習	活動	指導	資料
		教師の働きかけ	生徒の活動	援助の留意点	
活動の展開	「適性」の意味を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生活と進路」p67の「適性の意味を考えよう」を読ませ適性の意味を考えさせまとめさせる。 ・Bさんが保母を希望している動機や目的について考えさせ発表させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生活と進路」p67を読み適性とは何かを考えまとめたものを発表させる。 ・「保母をめざしたい…Bさんの希望」「みんなの感想」を読み、感想や考えをのべ合い、そのまとめを代表が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業との関連性をおさえる。 ・Bさんが保母に希望している動機や目的に共感させる。又職業選択に際しては、その職業が必要とする適性を知ることの大切なことを理解させる。 	<p>「中学生活と進路」(p67) 資料A</p> <p>「中学生活と進路」(p67～p69)</p>
	<p>友達の希望職業と適性。</p> <p>自分の可能性を含めて適性を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の希望職業と適性について話し合わせる。 ・「中学生活と進路」p69～p70「自分の可能性も含めて適性を考えよう」を読ませ感想を発表させる。 「可能性もふくめて適性」とはどういうことか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でお互いの適性について話し合う。 ・大きな声で朗読させる。 ・グループで話し合いまとめを代表が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記の例を参考に簡単でもなるべく全員について話し合うようにさせる。 ・努力によって能力や適性の伸張が可能なこと、未発見、未開発の部分があることを理解させる。 ・希望実現を目指して努力を重ねることの大切さを強調する。 	<p>資料B</p> <p>「中学生活と進路」(p69～p70)</p> <p>資料A</p> <p>自己評価票</p>

段階	学習内容	学習活動		指導 援助の留意点	資料
		教師の働きかけ	生徒の活動		
まとめ	適性についてまとめる。	本時の学習内容とプリントの課題についてまとめさせる。	・自分の希望職業と適性との関係、今後の努力点などをまとめる。	・正しい自己理解に基づく進路の変更や修正の必要なことを知らせる。	資料A 資料C

(6) 評価の観点

- ① 希望の職業の適性について、適性の面から考えることができる。
- ② 希望の職業の適性について、自分の可能性もふくめて考え、自己伸張に努めようとする態度が養われたか。

(7) 事後指導

- ・ 適性について生徒の自己評価票を参考に理解が不十分な生徒には指導していく。
- ・ 次時にむけて自己分析表をかかせておく。

6. 資料

資料A 記録ノート

「適性」の意味をまとめてみよう。

Bさんの希望——— Bさんの希望についてみんなの感想

「可能性もふくめての適性」どういうことか、書いてみよう。

適性について分かったことや感じたことを書いてみよう。

資料B

グループの希望職業をあげ、必要とされる適性をまとめてみよう。

	氏 名	職 業 名	必 要 と さ れ る 適 性
1			
2			
3			
4			
5			
6			

資料C

自己評価票

2年()組 氏名()

評 価 項 目	評 価		
学習内容がわかりましたか	わからない 1	ふつう 2	よくわかった 3
授業に集中できましたか	できなかった 1	ふつう 2	よくできた 3
授業に進んで参加しましたか	しなかった 1	ふつう 2	よくできた 3
適性についてわかりましたか	わからない 1	ふつう 2	よくわかった 3
適性と職業の関係について自分なりにまとめることができましたか	できなかった 1	ふつう 2	よくできた 3
授業の感想を書いて下さい			

7. 授業を終えて

(1) 生徒の評価

・評価の項目

評価項目	1	2	3
学習内容がわかりました。	わからない (0%)	普通 (47%)	よくわかった (54%)
授業に集中できましたか	できなかった (0%)	普通 (52%)	よくできた (48%)
授業に進んで参加しましたか	しなかった (0%)	普通 (57%)	よくできた (43%)
適性についてわかりましたか	わからない (5%)	普通 (40%)	よくわかった (55%)
適性と職業についてまとめることができましたか	できなかった (5%)	普通 (57%)	よくできた (38%)

・授業の感想

今まで、自分が何に行きたいかを考えていなかったが、授業をして、いろいろの職業があることを知ることができた。

これまで、適性という言葉の意味をあまりわかっていなかったが、この授業で、よくわかった。将来のことを考えるについて、大切な言葉だと思った。

と、よかった。職業分類は、いろいろある。自分たちが何をしたいのか、よく考えた。いろいろな職業があることを知ることができた。

自分では、いろいろ考えたが、職業の事について、よくわかった。自分の適性にあつて、職業があるのか、考えさせられた。

自分が大きく悩んだときのことを考えた。適性をよく考えた。いろいろな職業があることを知ることができた。

適性という言葉の意味を、これまで知らなかった。この授業で、よくわかった。いろいろな職業があることを知ることができた。

とても、たのしい授業だった。

将来の自分が、おもしろいようにおもしろい。

今まで、自分が何に行きたいかを考えていなかったが、授業をして、いろいろの職業があることを知ることができた。

適性と職業の関係について、よくわかった。いろいろな職業があることを知ることができた。

自己評価表

2年(1)組 氏名(江洲 由美子)

評価項目	評価		
	1	ふつう	2
学習内容がわかりましたか	わからない 1	ふつう 2	よくわかった ③
授業に集中できましたか	できなかった 1	ふつう 2	よくできた ③
授業に進んで参加しましたか	しなかった 1	ふつう 2	よくできた ③
適性についてわかりましたか	わからない 1	ふつう 2	よくわかった ③
適性と興味の関係について自分なりにまとめることができましたか	できなかった 1	ふつう 2	よくできた ③

「可能性もふくめての適性」どういうことか、書いてみよう。

好きな仕事をして、才能もある。その上としてクッキー作製も得意だと思ふ。

適性について分かったことや感じたことを書いてみよう。

自分も好きな仕事からか、夢を叶えてほしいと思ふ。だから、自分の適性を考えて、将来の目標に近づけるように努力。

資料B

グループの希望職業をあげ、必要とされる適性をまとめてみよう。

	氏名	職業名	必要とされる適性
1	智代	裁判官	細かなこと、正確な判断力、責任感、誠実さ。
2	さつき	ジャーナリスト	社会情勢の知識、コミュニケーション能力。
3	真紀子	看護婦	忍耐強さ、責任感、コミュニケーション能力。
4	美和	通訳	社会的で世界に進出できる。
5	裕美子	ハウスマロン	センスもよく、話し言葉がから。
6	梨乃	女優	個性を生かせるから。
7	由美子	医者	人を助けたい。
8			

授業の感想を書いて下さい

授業の感想のまじしさがわかった。授業の目的にもっと努力する点があると気づいた。

資料A

記録ノート

「適性」の意味をまとめてみよう。

「あの人にはなにに似ている」とか「なにに似ているから成功するだろう」という意味

Bさんの希望 —— Bさんの希望についてみんなの感想

いいと思う。わたしの意見を取り入れた方がいいと思う。自分にしてあげたいと思う。仕事は予想以上に大変なものだから、よく考えた方がいいと思う。

(2) 授業者の反省

- ・本時の題材に入る前に前時の学習内容を補う必要があり、全体として授業内容が過密になった。
- ・生徒の学習活動については、生徒はよく動いてくれたように思う。
- ・グループで活動させるときの活動の指示をはっきりさせる必要があった。
- ・前時の授業を補うため、OHPを使用したのが、教科書で確認し補ってもよかった。

(3) 授業反省会

- ・内容が多かった。
- ・グループの話合いの観点をはっきりさせる必要がある。
- ・資料の工夫がなされていてよかった。
- ・生徒は生き生きと授業に参加していた。
- ・OHPにもっと工夫をしたほうがよい。
- ・記録ノートのポイントをマニュアルをもとに書かせると生徒が記入しやすくなる。



V 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

「自己理解を深める進路指導の工夫」をテーマ四ヶ月間取り組み、生徒の意識調査をもとに、資料を作成し授業実践をしてきた。そこで成果と今後の課題として次のことがあげられる。

- (1) 進路に関する意識調査をすることにより、生徒・教師の実態を把握することができた。
- (2) 進路指導年間計画を作成することができた。
- (3) 進路に関する多くの文献に接し、又、県外研修にも参加することができた。
- (4) 自己理解に関する資料を作成することができ、その資料を基に検証授業ができた。
- (5) 適性の意味を理解させ、希望取業について考えさせることができた。
- (6) 自分の特色と進路を関連づけて考えさせることにより、生徒に将来の職業に対する興味や関心をもたせることができた。

2. 今後の課題

- (1) 進路学習を年間指導計画のもとに、学級の実態に応じて計画的に授業実践ができるようにする。
- (2) 各学年の題材にそった指導案の作成と資料の活用について。
- (3) 生徒の自主的・実践的な態度を育てるための授業形態の工夫。
- (4) 学級活動の内容(1)・(2)・(3)を関連づけ、効果的に指導するにはどうすればよいか工夫する。
- (5) 進路相談の計画と実施
- (6) 進路相談室の充実と活用
- (7) 進路指導に関する校内研修の実施と協力体制の確立

3. おわりに

この度の研修で、進路指導に関する認識を新たにし、多くの文献に接することができた。又、諸々の研修に参加できたことは大変有意義でした。

私は、この研修で得た多くの成果をこれらの教育実践にいかすよう鋭意努力するつもりです。又研修を通して浮き彫りにされた学校における進路指導上の問題点の解決にあたっては、校内研修などを通して、より確かな方向性を求めて着実に進めていきたいと思ひます。

最後に、研修の機会を与えて下さった保久村教育長、直接指導いただいた新垣和子先生、市教育委員会の主事、県立教育センターの主事、温かく励まして下さった福山所長、研修がスムーズにできるように気配りをして下さった研究所の方々、共に協力しあった研究員の皆さんに深く感謝申し上げます。

参考文献・資料

	中学校指導書 特別活動編	文部省
進路指導の手引	中学校学級担任編	文部省
荒 冨 昭 雄 監修	新しい学級活動の指導事例	実業の日本社
宗 像 憲 治 編		
谷 後 隆 明 著	自己理解に基づく進路指導	文教書院
	教職研修総合特集 進路指導読本	教育開発研究所
	1. 新しい学級活動の指導事例 学級活動担任編	明治図書
高嶺中学校	学級活動（進路）指導案	
県立センター短期研修資料		